受賞作家作品 展示販売会

2022
11.5(土)—13(日)
11:00-18:00

11.9(水) 受賞作家によるギャラリートーク
13:00-14:20

in 羽田空港

日本和文化グランプリ

日本和文化グランプリ

受賞作家作品 展示販売会

2022
11.5(土)—13(日)
11:00-18:00

11.9(水)
13:00-14:20
受賞作家による
ギャラリートーク

第1回
日本和文化
グランプリ
2021
グランプリ Grand Prix

木桶
「YORISIRO」シリーズ(上)
「Wave」シリーズ(下)
中川周士
(中川木工芸比良工房)

杉の木が育つ時の自然な造形をそのまま木桶に

700年以上続く木桶の箍(たが)締め技法を用いた作品制作をしている中川木工芸比良工房。「YORISIRO」シリーズは、木の自然な曲がりをそのまま表現することで割れやゆがみを起こさないように木桶として再構築。また、「Wave」シリーズは、テコの原理を使うことで上方にタガをなくし自由な波型を表現している。

第2回
日本和文化
グランプリ
2022
グランプリ Grand Prix

木工芸
Chiritori×Houki
羅琪(ロチ)

握った時の穏やかな感触、優しい色彩と掃く音と

ちりとりは、一本一本を手で松本箒の特別な形と合わせて形を整え、それに徳島の天然染料『藍』で染色したもの。箒は、第三代の職人さんが長年の経験と技術、こだわりをもって、自家栽培したホウキモロコシを材料として作った、世界で一つだけの箒。

in 羽田空港
羽田空港フライトデッキ
〒144-0041 東京都大田区羽田空港3丁目4-2
羽田空港国内線 第2旅客ターミナル5階

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
日本財団のご協力に関しては遺贈寄付を活用させていただきました。

Japan Cultural Promotion Project

主催:一般社団法人日本和文化振興プロジェクト(JCPP)
https://www.jcpp.jp *E-mail : contact@jcpp.jp*

ARTS for the future! 2

和文化が創る未来の伝統

伝統的美意識とテクノロジーの融合を求めて

Japan cultural promotion project

日本和文化グランプリとは

各分野の企業、協会、自治体が協業し、持続可能な日本の和文化発展の仕組みを構築・確立するため、2020年5月に一般社団法人 日本和文化振興プロジェクトを設立いたしました。そして、日本が誇る優れた作品を顕彰するイベントとして当グランプリを開催しております。
本展は第1回（2020年8月）、第2回（2022年3月）の受賞作家作品の展示販売会となります。今後も受賞者に対しての需要拡大につながるフォローを具体的に実施し、和文化の担い手が持続的に活動できるよう継続してサポートいたします。

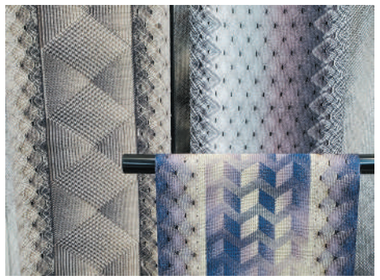
第１回 日本和文化グランプリ 受賞作家作品

優秀賞 Excellent Award

漆芸「湛える」
青木伸介

黒漆で塗り重ねた内側の艶と、外側の和紙肌との対比が美しい

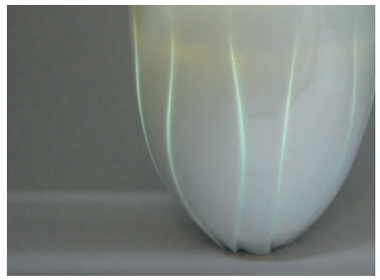
乾漆技法で作られた器はゆったりとした造形美を持ち、おおらかである。和紙は広島の大竹和紙であり、その荒い肌に漆を染み込ませるように何度も塗り重ねている。自然な繊維の凹凸が優しい光となり、使うたびに美しさを増す作品である。



京くみひも 三軸組織®「孔雀皇貴」
室門耕一郎（有限会社絲巧）

日本最古の帯「唐組平緒」の技法と美意識を現代に展開

八寸の名古屋帯用の大型の機械を駆使して、工芸技術を現代に合わせ発展させている。色のグラデーションを考えて組み上げられた本作は、美の本質とは何かを提案している。



磁器「ゆらぎ」
樽田裕史

青白磁釉に光が差し込み「究極の線」を創り出す

「蛍手（ほたるで）」という伝統技法を用いて作品づくりをしている作家。蛍手とは、本来は小さな丸い穴を開けて透し彫りにし透明釉を充填させる、中国明時代の技法。「ゆらぎ」では、薄く轆轤成型した器に弧を描くようにスリットで穴を開け、蛍手を用いて「究極の線」を目指す。

学生賞 Excellent Student Award

写真フレーム「KOZAI」
野村涼平

京町屋の廃材となった木材を使い額縁に展開

京都の町屋は年間多くが壊されその廃材の量が夥しく、焼却処分されてしまうことに心を痛めたことが制作の発端。サイズも素材も何もかも違うものを合わせ、そこに炎を当てる焼き杉技法などにより作られた姿には、時代を超えた神々しさを感じる。

特別賞 Special Award

東海女性若手職人グループ「凛九」
作家：梶浦明日香・松尾友紀・藤岡かほり・那須恵子・中西由季・大須賀彩・田村有紀・太田結衣・大内麻紗子

若い女性が伝統の技の世界に踏み込み、技法を受け継ぎ、女性の視点で創作し、未来へ引き継ぐ

想定していなかった応募内容だったが、その取り組みに夢があり、9人の個性が絡み合って大きく発展をしている姿に、審査員一同何らかの形で評価をしたいということで特別賞とした。これまでの様々な場面での発表活動も高く評価されており、今後への期待が膨らむ。

第２回 日本和文化グランプリ 受賞作家作品

準グランプリ Semi-grand Prix

漆芸「Ether」
佐々木岳人

伝統と革新。和文化の精神と本賞のパーパスが形になって現れたような作品

ファスナーは開かない。表面は革製品に見えて、革ではない。蓋を開けると、艶やかな漆が広がる。思い込みはあっさりと裏切られる。そして触れる人、使う人の想像力を広げるパワーに満ちている。
作り手はこの様子を想像して、にんまりしているのではないか。多くの気配りを施しながら、見事な匠の技が軽やかに決まっている。

酒器「和 nagomi の酒器」
藤田 和

漆芸の加飾技法とガラスを組み合わせ、やわらかな光や奥行きを表現

「和 nagomi の酒器」には、アールヌーボーの植物に対する観察や繊細な造形化を透明なガラスの生命感と重ねていく精神との共通点が見てとれる。植物の線的な表現はよりライトだがそれがいくつものレイヤーや形の重なりあいによって、その場の雰囲気に浸透していくような共鳴を生み出している。漆や箔などの伝統技法をさりげなく幾重にもつかいながら、そこに「植物という生」のいきづかいをもたらす。

優秀賞 Excellent Award

カウンターテーブル
「Floating Boat Counter
── 舟のように浮かぶカウンターテーブル──」
児玉理文（一級建築士）
石川大樹（一級大工技能士/二級建築士）

伝統的技術である「舟肘木（ふなひじき）」を家族が集う空間に活かす

日本建築の伝統的技術である「舟肘木（ふなひじき）」をモチーフに、家族のくつろぎの場所で建築と家具を一体化する実用性と日本の木構造の美しさを現代に生かした作品。舟肘木は日本の伝統的建築の中で住居系の建築、京都御所清涼殿、園城寺光浄院客殿等で使われる構造意匠。その舟肘木をモチーフに、建築と一体化したテーブルとして立体的に構成し、住まいの中心として家族が楽しく集まる美しい空間を作り出す。

折りたたみ式正座補助椅子
「patol stool SEIZA」
平山和彦・真喜子（平山日用品店）

畳文化を気軽に楽しめる補助器具。「たたむ文化」を具現化した無垢材の椅子

めっきり正座の機会の減った現代人には強い味方になりそうだ。椅子の高さやサイズ感、それに細かく折りたためる収納もいい塩梅。
折りたたみ時は、厚みが約42mmまで小さくなり、重さは280gと軽量。座板と脚の計5つのパーツを、古来より屏風等に使われてきた「紐蝶番」を用いて繋ぎ合わせており、直感的な操作感の2ステップで組み立て、折りたたみが可能である。

日本和文化グランプリ 審査委員

審査委員長

三田村有純
東京藝術大学参与、名誉教授／漆芸家／日展理事

審査委員

リシャールコラス
シャネル合同会社 会長

秋元梢
モデル

秋元雄史
練馬区立美術館館長

上杉孝久
日本食文化会議理事長／上杉子爵家九代目当主

襟川文恵
公益財団法人
横浜市芸術文化振興財団
横浜美術館渉外担当リーダー

大倉源次郎
能楽小鼓方大倉流十六世宗家

片平秀貴
丸の内ブランドフォーラム代表

田中里沙
事業構想大学院大学学長

長谷川祐子
金沢 21 世紀美術館館長
東京藝術大学大学院教授

堀越英嗣
芝浦工業大学名誉教授／建築家 堀越英嗣
ARCHITECT 5 代表

Japan Cultural Promotion Project

本展のプレスリリースへ